

## 入試の合否はどう決まるのか

みなさんは入試の合否がどのように決まるのか知っていますか？ 入試の合否の判定の基準は、年によって様々に変化しています。入試の合否がどのように決められるのか確認しましょう。

## 合否の判定は総合的に行われる

合否の判定は、いくつかの要素を合わせて、総合的に決められます。

- ① **学力検査**（ほぼすべての学校）  
…いわゆる「ペーパーテスト」です。学校によって科目数が異なります。  
※英検などの外部検定のスコアによって最低保障される点数が決まる制度もあります。（裏面）
- ② **調査書・個人報告書**（ほぼすべての学校）  
…中学校での各教科の成績、活動の記録などが書かれています。中学校で先生たちが作成します。
- ③ **自己申告書**（すべての公立学校）  
…「高校で何を学びたいか」「中学校で何をがんばったか」などを書きます。いわば、自分をアピールする作文です。合否の判定にも使われます。
- ④ **面接**（多くの私立学校と、一部の公立学校）  
…個人、または数名のグループで、面接官の質問に答えます。聞かれて答えられないような質問はされません。服装や態度、ことば遣いが「なってない」場合は、いくらテストで点を取っていても不合格になる場合があります。
- ⑤ **実技試験**（一部の学校、学科のみ）  
…体育科ならスポーツ、音楽科なら歌とピアノ、というように、実技を評価してもらいます。

## 私立と公立の合否判定の違い

- ① **私立高校**  
…学力検査で基準点を越えることが原則です。基準点を越えていれば、定員以上の受験生が合格になります。基準点を越えられなくても、中学校での成績が考慮されて合格になる場合もあります。第1希望の学科・コースの基準点を越えていなくても、第2希望で合格になる場合もあります。面接試験を重視する学校も多いです。スポーツなどで実績を残している生徒に対する推薦入試制度や、成績優秀な生徒に対する特待生制度を持つ学校も多いです。
- ② **公立高校**  
…中学校の9教科の評定と、入試の点数を合計して、総合点の高い人から順に、募集定員までが合格になるという形を基本としています。よって、中学校の成績と、入試での得点力の両方が大事です。定員が厳密に決められているので、志願倍率によって難易度が大きく変わります。

## 入学者選抜における英語資格（外部検定）の活用について

学力検査「英語」において、外部機関が認証した英語力判定テスト（TOEFL iBT、IELTS 及び実用英語技能検定（英検）を対象とする。）のスコア等を活用する高校が増えています。

公立高校はすでに実施されていますが、私立高校はこれからさらに増えていくことが予想されます。

### <公立高校での読み替え>

スコア等に対応する英語の学力検査の読み替え率を次のとおりとし、この読み替え率により換算した点数（最低保障する点数）と当日受験した英語の学力検査の点数の高い方を当該受験生の英語の学力検査の成績とします。

TOEFL iBT	IELTS	英検	読み替え率	最低保障する点数	
				特別選抜	一般選抜
60点～120点	6.0～9.0	準1級・1級	90%	40.5点	81点
50点～59点	5.5	（対応無し）	80%	36点	72点
40点～49点	5	2級	70%	31.5点	63点

※特別選抜は45点満点、一般選抜は90点満点です。

### <例>（一般選抜90点満点の場合）

英検2級の生徒が、当日の英語の学力検査の得点が60点であった。その場合、英語の学力検査の成績を最低保障する点数である「63点」が保障されます。

上記のように、英語の学力検査において、外部機関が認証したスコア等が活用されます。だからといって、外部機関の判定テストのスコアを上げることに専念し、英語の受験勉強がおろそかになるのは本末転倒です。たとえば、当日の英語の学力テストが比較的容易で受験生の平均点が高かったとすれば、英検で最低保障する点数を多くの受験生が超えてしまうことも十分考えられます。

また「英検取得後に英語の勉強がおろそかになり、高校に入ってから英語の授業についていけない生徒が増えている」という情報が、高校の先生から入ってきています。

あくまでも、日々の授業を大切に、コツコツと受験勉強を積み重ねていくことが大切です。そのうえで、外部機関の判定テストを受けてみるのはよいと思います。

それから、たとえば英検で準1級を取得することは中学生にとっては非常に難しいことです。だからこそ、上記のような読み替え率になるということも知っておいてください。